

中小企業の事業承継後押し



喜望大地会長 喜多 洲山 氏

きた・しゅうざん ローカル小売業3代目。株式上場を目指すも経営危機に陥り、組織再編とM&Aで事業を再生。その経験から経営コンサルティング会社喜望大地を創業、約1100社の事業再生を支援。立命館大学大学院経営管理研究科修了（MBA）。著書に「あなたの会社をお救いします——事業再生総合病院」（幻冬舎）など。

経営者の高齢化が進み、後継者不足に悩む中小企業では安定した経営と事業の引き継ぎが大きな課題になっている。その対策が急がれる中、1冊の本が1つのヒントになりそうだ。「増補改訂版・少数株主のための非上場株式を高価売却する方法」（幻冬舎メディアコンサルティング）だ。非上場株式の買い取り事業とは、事業承継にどのようなメリットをもたらすのか。著者でコンサルティング会社喜望大地会長の喜多洲山氏に聞いた。

少数株主の相談がきっかけ

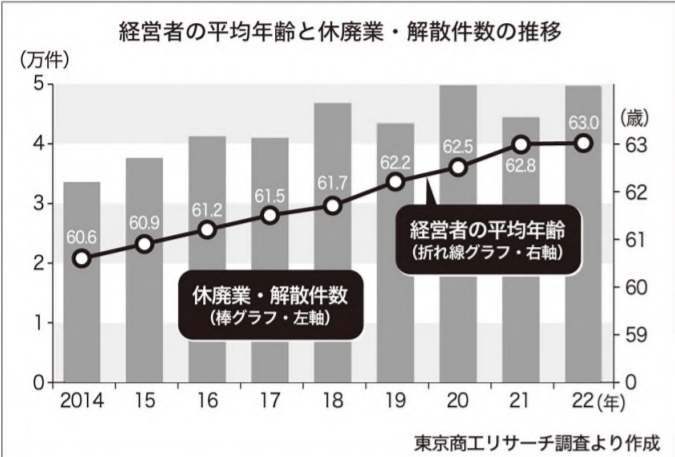
本書で書かれている「非上場株式の買い取り」ですが、耳慣れない言葉です。

喜多 日本には約228万の株式会社があり、その99.8%が非上場会社です。日本経済にとって大事な存在ですが、非上場株式はこれを売買する市場がありません。買い手が見つからなかったり発行会社から不当に低い株価を提示されたりして、売りたいけれども売れないでいる持ち株比率50%以下の少数株主が大勢いるのです。

そうした状況下で今、様々な問題が発生しています。非上場会社の多くは同族会社ですが、創業者が亡くなった後の相続や事業承継の際に、非上場株式にスポットが当たることがよくあります。当社が非上場株式の買い取りを事業として始めたのも、そんな相談を受けたことがきっかけでした。

——どのような相談を。 喜多 知合いのコンサルタントから「創業者の父から経営を継いだ兄に自宅を奪われそうになっている女性がいるので相談に乗ってほしい」という依頼でした。当社の準備範囲ではないと思いつつも会って話を聞くと、自宅の問題のほかに「非上場株式を売

りたいが会社が買い取ってくれない」と困っていました。実はこの問題は以前から気になっていました。当社はこれまで経営コンサルティング一筋。事業再生を中心に事業承継、M&A（合併・買収）、資金調達、会社再建、ベンチャー育成などに日々取り組み、中小企業の間でこの問題が頻発していたのです。



経営者歴45年、再生を経験した喜多 世の中にそれだけニーズがあるということですから、それから非上場株式について勉強。分かってきたのは、非上場株式の現金化に関する専門家がどこにもいない

買い取りで分散株式を集約へ

い、ということ。よく弁護士からも「少数株主から依頼を受けて会社と交渉したがるまいか」といった相談が舞い込みました。

当社なりに仮説を立てて過去それで成功した方法がありました。簡単に言うと、まず当社が少数株主から株式を買い取る。そのうえで会社側に譲渡承認請求を実施。承認となれば、会社側と話し合いを行い、株価の折り合いがつかなければ裁判所で代理人弁護士を立て互いに主張します。

先に挙げた兄妹の例では、最終的に裁判所の和解提案を受け入れる形で決着しました。本書ではこうした実例をたくさん取り上げながら、これまでになかった非上場株式を現金化する方法について詳しく解説しました。株式が現金に換わり消費に回ることによって日本経済が活気づくという願いも込めて執筆しました。

——株価も決まらない段階で非上場株式を買い取るのには大きなリスクです。 喜多 その通りです。本当は首尾よく決着したら成功報酬をいただく方が楽ですが、弁護士法に抵触してできません。ただ当社にはコンサルティンク会社として18年間で約1100社の事業再生で培った知識と経験があります。さらに公認会計士や税理士、不動産鑑定士などの専門家とネットワークもあり、その協力を得て発行会社の経営状態や将来性を見極め、少数株主が納得できる株価を算出し買い取れるよう努力しています。

私自身が25歳で年商1億円の事業を継ぎ今年で45年になるオーナー経営者です。一時は年商50億円、従業員250人の規模になりましたが、後に30億円の負債を抱え、会社分割とM&Aで事業を再生させた経験があります。人間は感情の動物です。この事業ではオーナーや経営者がどういう人物か見抜く力が求められます。プロセスの経済合理性。決算資料などから会社が持つ価値や将来の成長性を読み解く力が求められます。

社会から求められる事業

——事業の心算は。 喜多 年々少数株主からの問い合わせが増え、弁護士を通じた依頼も増えています。最近では破産管財人からの依頼が急増しており、社会から必要とされている事業であることを改めて実感しています。もう一つ変化を感じるのは、発行会社のオーナーに喜ばれるようになったことです。実は相続などで分散した株式を当社の買い取り事業で集約できることは、オーナーが今後事業承継やM&Aを考えたうえで大きなメリットになるのです。当初は困っている少数株主を救う使命感で始めた事業でしたが、中小企業が安定して経営を引き継ぎ事業を続けていくうえで役に立つ仕事だと、より発展的に考えられるようになりました。

——経営者の高齢化が進み中小企業の事業承継は大きな社会課題になっています。 喜多 オーナー経営者の中には自分は永遠に死なないと錯覚している方がいますが、スムーズな事業承継に向けて事前準備をしておけば、従業員も安心だし仕入れ先や得意先にも喜ばれます。そのためには分散した株式を集約しM&Aなどの対策を機動的にとれる体制をつくっておくことが大切です。

——これまで相続などの問題が発生した後で当社が株式を買い取り、問題を解決に導いてきた。しかし問題が起きている前か相談や支援ができていなければ、家族や親族が仲たがいのまま、家族や親族が仲たがいで解決できるようなりません。医療で言えば予防医療です。そんな事業承継サポート事業にも今後は力を入れていこうと考えています。

企画・制作=日本経済新聞社Nブランドスタジオ

発売・幻冬舎 発行・幻冬舎 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7 tel 03-5411-6440/fax 03-5411-6441 ●お近くに書店がない場合のご注文はブックサービス TEL 0120-29-9625まで。 1500円(税込価格 1650円)

少数株主のための
非上場株式を
高価売却
する方法

株式買取相談センター代表
喜多洲山 著

増補改訂版

納税は待ったなし
相続で引き継いだ株式
どうしたらいいの？

換金したいのに誰も買い取ってくれない……
買い手が見つかったっても買い叩かれる……
相続したら多額の相続税が発生した……
非上場株式に関する
悩みを抱えている方が読むべき1冊

- 非上場株式を相続すると多額の相続税が賦課されるリスクがある
- 相続税の額を決める非上場株式の評価方法
- 譲渡制限がついていても売却することは可能
- なぜ非上場株式は売れないのか？
- 売却困難な株式の種類
- 非上場株式を現金化するまでの流れ
- 売却後の非上場株式はどうなるのか？
- 正当な価値を算定するノウハウとは
- 個人が非上場株式を売却する際の注意点
- どん底の状態から株式換金を勝ち取った人たち
- 非上場株式買収のQ&A ……ほか

ベストセラーランキング
第1位
MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店
ビジネス書 (2022年2月13日~2月19日調べ)

amazon ランキング
書籍総合 株主総会・取締役会・会社継承
(2023年4月17日~18日調べ)

マーケットがなく
売れないとされてきた
非上場株式を換金する
方法を徹底解説



売れないと諦めていた非上場株式が高価売れる!?